

ロータリーとは何か

(ロータリー入門)

松 崎 勝 一

RI第2750地区パストガバナー

(2002-03)



目 次

1. まえがき
2. What is the Rotary?
3. Why am I a Rotarian?
4. あとがき

1. まえがき — 入会の動機 (私の場合)

私は1955年26歳のとき弁護士の登録をし、今日まで50年間弁護士の業務に従事してきました。

その中間点である50歳のとき清家清先生(後のパーストガバナー)の推薦で東京目黒ロータリークラブに入会させていただきました。

それまで私は弁護士の本務である「人権の擁護」と「社会正義の実現」の目的に沿って多くの民事・刑事事件、中でも憲法第28条にかゝる労働事件に長い間携わってきました。

そしてその傍、青年法曹として東西冷戦のさ中「平和と軍縮」のための国際会議や国際交流に参加し、西欧・東欧・ソ連邦など世界各国を長年駆け廻ってきました。そして壮年期に入る頃から国内的には司法の民法化・法曹一元を目指した弁護士会活動に参画し、国際的には日中法律家交流協会・日ソ法律家交流協会を通じて、その親善・交流に参加してきました。

そしてロータリー入会後のことですが日ロ親善フォーラム21(議長桜内義雄カウンターパートはソ日友好21世紀委員会・議長ルシコフモスクワ市長)の運営委員として日ロ親善・北方領土返還活動にも参加してきました。

これらは全てロータリー風にいえばその本質は「職業奉仕」でありまた「社会奉仕」「国際奉仕」の活動です。そのようなわけでロータリーに入会する意図はそれほど強いものではなかったのですが、創始者ポール・ハリスが同業の弁護士であったこと、そしてなによりもロータリー活動がいかなる系譜・範疇の社会・経済活動に属するのか大きな興味や関心を抱いたからでした。

そして、それまで苛烈を極めた社会主義運動が下火となり、ひきかえ遙か以前からロータリー活動が資本主義社会の、整風運動の趣きを以て燎原の火のように自由主義の諸国に広がっていった様に刮目せざるを得なかったからでした。

このようにして入会した私は各種地域大会や国際大会にも度々参加し、興味と関心を増幅させていきました。もとより本業ほどに注力してきたわけではありませんが地区活動にも従事したことでガバナーの指名を受けることになりました。

そして皆様のご支持とご協力が無事その任務を了えることができましたの

でいさゝかでもその知識と経験を生かした永遠の命題である「ロータリーとは何か」の小誌を認め御礼の意味をこめて皆様の御手許に御届けする次第です。ご笑覧いただければ幸甚です。

2. What is the Rotary?

私たちが多く耳にするのはロータリーは分りにくいという言葉です。

その理由は、根元的には体系的な理論書がないからだと思いますが、国際ロータリーをはじめ地区クラブから情報が洪水のように送られてきますが本業ではないので、それらの勉強に欠けるからではないかと思えます。特に最近では技巧的、技術的なマニュアルものやハウツウものによる点もあるのではないかと思えます。

前述のとおり、米国シカゴで四人の職業人によって新教の風土の下で始められたプラグマチズムの運動なので、宗教団体の場合のような教義経典、政治団体の場合のような政治綱領など体系的・絶対的なものがないことによるのではないかと思われまます。

それにもかかわらずロータリーはファウンダー(創立者)に続くビルダー(組織者)セロリスト(理論・哲学者)等の不断努力を経て種々の思考錯誤・迂余曲折を重ねて今日地球規模で166ヶ国に跨り32000のクラブ、120万名のロータリアンを擁する大きな組織に発展しました。

そこには世界中の多くの人々が共感し共有するもの、自己の人世に大きな足跡や意義付けをもたらすものがあるからこそ大きな結集が得られたのではないかと思えます。

では「ロータリーとは何なのでしょう?」

ロータリーが発祥する以前(1867-94)地球上就中西欧で「資本論」というカール・マルクスの著作による社会思想の怪物が徘徊していました。資本主義は搾取の社会で公正で透明な社会を構成することができない。社会主義こそ人類がめざす理想の社会の形態であるというのです。そのことをポール・ハリスがどこまで意識したか詳かではありませんが1905年人心の荒廃と汚辱まみれのシカゴの街で同志3名と相互扶助と精神的連帯結合を求めロータリー活動をはじめたのです。

しかし間もなくこのような目的(scratch my back)では限界があることに気づき「職業奉仕」つまり職業の帶有する有益性と有害性に着目しその行使に

ついて「奉仕の理想」を適用することの不可欠であることを確認し「職業奉仕」の実践を中核に据えた活動の果敢な展開を計り、さらに「社会奉仕」「国際奉仕」にわたる活動を加えた数次のロータリー綱領の手直し改訂を行い今日のロータリー活動のモデルを完成させてきたのです

以上のとおりロータリー活動は、好むと好まざるとにかゝらず、意識すると否とにかゝらず社会主義活動に対置された資本主義体制内の改良運動の本質をもつものであることは銘記しておく必要があると思えます。

この意味でロータリー活動の真髄は「職業奉仕」にあり、ロータリーが「職業奉仕」を疎かにしたり、罷めたとき、ロータリーの命脈は終焉となり単なる慈善団体に墮することゝなるでしょう。

75年間にわたる人類の壮大な実験として強行された社会主義体制が内部矛盾により崩壊した今日曾っての緊張感をもったロータリー活動の輝きは相対的に低落したといえなくもありませんが、社会主義国の体制転換によりロータリー活動がその分拡がりを見せ、今後は中国の体制如何がロータリーにとって大きな関心事となるでしょう。

いずれにしてもそのような中において資本主義体制の健全な維持発展のために「職業奉仕」=「ロータリー活動」の意義付けは増大することはあっても少くなることはありえないことでしょう。この上はロータリー100年後の新世紀に向けて南北問題・環境問題などウィングを拡げ一言でいえば「平和で調和のとれた社会」の建設に邁進することが職業奉仕が企図する公正で人間性豊かさを目指す外延として求められてゆくことなのでしょう。

このようにして今まで100年にわたってその活動を永続してきたロータリーは、ロータリーの理念・プロジェクト・マニュアルを構築・形成してきたし、世界的規模での無数の実践を通じていわゆるロータリー文化を作出してきたといえましよう。

そしてその実践は宗教のような絶対主義ではなくてアマチュアリズムの相対主義による柔構造によって、単年度毎のリーダーの強調主義に導かれて行

われてきたものです。またこのことが多義的なロータリーの特徴としてその永続性を保持し得た所似ともいえるでしょう。

ロータリーとはこのようなものといえると思うのですがいかがですか。更にロータリーの歴史・理念・哲学を詳しく知りたい時には多くの文献による史実を参照されることをお勧めします(ロータリー文庫所蔵)

3. Why am I a Rotarian?

では私たちは何故ロータリアンになっているのでしょうか。

推薦なしにロータリアンになった者は120万名のロータリアン中唯一人ポール・ハリスを除いてはいないのですが、私も清家清先生の推薦により東京目黒ロータリークラブに入会し、その後拡大で東京青山ロータリークラブに移籍して25年間ロータリアン生活を送ってきました。

では何故どんな気持でロータリアンを続けてきているのでしょうか。

人にはいろいろな人間関係があります。根元的には家族関係があり次に学友関係、そして友人・知人関係があり、職業上の先輩・同僚・後輩など多くの人に支えられ助けられて生涯を送ってきています。

それらの中であってロータリー関係は幸運にも多くのバリエーションに富んだ職業人の知友関係であり、かけがえのない人間関係を構成し得ているといえるでしょう。

しかも「奉仕の理念」に集う善意の人の集団なので、居心地の良い意義の高い職業生活、平和のため、そして調和のとれた社会建設に従事する機会を多く持つことができるのです。

かの有名な哲学者であり経済学者であったアダム・スミスは人間の本质についてその著「道徳感情論」(モラル・センチメンズ)の中で人間は「生活改善願望」を持っているが「称賛願望」も持っている。「称賛願望」は人間の徳性そのものでないが徳性の代替物たり得るしそれは神与の解毒剤であるまで述べています。

ロータリーライフはこの人間の真情と共鳴し合っているところがあるのではないのでしょうか。それにつけても、世の多くの識者は「他人の幸福のために闘うことが最も幸せな人生なのだ」(S.リッテンバーグ、A.ベネット、毛沢東)と述べています。また、1992-93年度国際ロータリー会長クリフォード・L・ダクターマン氏は「Real happiness is helping others」(まことの幸せは人助けから)との年次テーマを提唱しています。

そして、わが国際ロータリーは求道者に求められるような高踏的な「超我

の奉仕」(Serve above self)と「最も良く奉仕する者最も多く報われる」(He profits most who serve best)の二つの標語を採択していますし、またわが国には「積善の家に余慶あり」の格言もあります。

このようにそれは他者に対して施すものであるがそのことが取りもなおさず意義ある幸せな人世をもたらすという意味含でロータリーの奉仕それは自分への奉仕を包摂したものだと思うのです。ロータリー活動を通じて「積善の家に余慶あり」の人生を生涯貫き通すことが極めて意義があり大切なことだと思います。

これらがロータリアンであることの意味であり価値であると思います。

4. あとがき — 結び

司波遼太郎氏はその著「ある運命について」の中(富士と客僧)で「人間は王侯であれ乞食であれすべて平等に流転する自然生態のなかの一自然物にすぎない。人世は本来無意味である。しかしそれでは余りにも淋しいので釈迦は本来無意味だということを積極的に行為として悟れと言ったのだ」と書いています。

神の導きによって両親によってこの世に送り出された私達は無意味な人世であれ眞に意義あるものとしての人世を送りたいものである。そのことで人世の充足感を報いとして戴けると思うのですがいかがでしょうか。

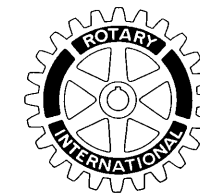
諸兄姉の幸せを願うばかりです。

× × × × × × × × × × ×

本誌はロータリー入門的なものですが「ロータリーとは何か」「何故ロータリアンになっているのか」はロータリーライフの基本テーマであり、「人生とは何か」の基本命題そのものであります。

このことさえ押さえておけばその他のことは全て応用問題であると思えますし、ロータリーを退会するような勿体ないことにはならないと思うのです。

2005. 2. 23 (ロータリー百周年記念日)



Rotary International